

# 行財政改革に関する取組状況について(H16~H23)

## これまでの主な取組

H15.8

### 行財政改革プラン(H16~H20)

- ◎財政調整用基金残高(20年度末)  
枯渇見込→実績 358億円(+358億円)
- ◎県債残高(20年度末)  
目標 1兆33億円→実績 1兆125億円(+92億円)  
※臨時財政対策債除き H15末 9,284億円→H20末 8,260億円

### 中期行財政運営ビジョン(H21~H23)

- ◎財政調整用基金残高(23年度末)  
目標 35億円→見込 323億円(+288億円)
- ◎県債残高(23年度末)  
目標 1兆651億円→見込 1兆515億円(△136億円)  
※臨時財政対策債除き H23末見込 7,640億円(10年連続して減少する見込)

緊急行財政改革本部会議(財政危機宣言)

<p>◆大規模施設の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分香りの森博物館、春日浦野球場など8施設の廃止</li> <li>・指定管理者制度、ネーミングライツの導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化センター、県立三重病院の廃止</li> <li>・指定管理者施設の拡大(総合体育館)、評価制度を導入</li> </ul>
<p>◆公社等外郭団体等の指導監督、整理・統合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流センター、林業公社など10団体の解散等(33→23)</li> <li>・文化振興財団とスポパーク21の統合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路公社、公営企業協会など12団体の解散等(66→54)</li> <li>・指導指針を策定し、経営状況等の把握・公表、点検評価の実施</li> </ul>
<p>◆事務事業の選択と集中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント、大会等の見直し(国体・障スポ開催経費の簡素化等)</li> <li>・投資的経費、補助費等の削減(公共事業及び単独事業の見直し等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策的経費の選択と集中(補助金等、シーリングによる一律カット方式見直し等)</li> <li>・投資的経費の見直し(公共事業の規模是正、国直轄事業の維持管理負担金廃止等)</li> </ul>
<p>◆総人件費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員定数を685名削減(目標:571名 +114名)(知事部局等+教育+警察)</li> <li>・退職手当の見直し、早期退職の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員定数を355名削減(目標321名 +34名)(知事部局等+教育)</li> <li>( ・職員定数は、行革プラン以降の8年間で1,040名削減 )</li> </ul>
<p>◆歳入の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県税収入の確保(滞納整理の強化)</li> <li>・県有財産の売却、有効活用(副知事、出納長宿舍売却等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県税収入等の確保(個人県民税・自動車税等の徴収強化、地方交付税の増額確保)</li> <li>・県有財産の有効活用(荷揚町体育館跡地、大分保健所跡地貸付等)</li> </ul>

他県に先んじたこれまでの行革の取組で、持続可能な財政基盤の強化が図られた。